

令和7年度 学校経営計画・学校評価

■4月8日(火)提出

■10月2日(木)提出

■3月13日(金)提出

学校番号	18	高知追手前高等学校吾北分校	課程	全
------	----	---------------	----	---

高知県の教育の基本理念	(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3) 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	スクール・ミッション	地域と協働して地域の資源を生かした特色ある教育活動を展開し、学校の垣根を超えて学びを深化させることにより、地域社会を担う人材を育成する。 仁淀川流域の自然資源を生かした地域・体験学習や伝統芸能の継承等を通して、他者と協働する力を養い、地域社会に貢献する人材を育成する。	
	【アドミッション・ポリシー】(入学受け入れ方針) ○自己の能力を伸ばそうとする意欲のある生徒 ○教科の学習や実習等に真面目に取り組む生徒 ○思いやりがあり、主体的に考え行動できる生徒 ○学校行事・部活動・生徒会活動等に積極的に参加する生徒 ○自己の進路について真剣に考え、将来、地域や社会に役立つ人間になろうとする生徒	【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○小規模校の特性を生かし、きめ細やかな指導により、一人ひとりを尊重した授業を展開します。 ○将来を見据え、自己理解を深めるためのインターンシップや地域の伝統産業である土佐和紙や郷土芸能である清流太鼓を題材とした探究学習に取り組みます。 ○本校との遠隔授業や県教育センター遠隔授業配信センターからの授業を選択授業として設定しています。		
	【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○目標に向かって努力する力を育成します。 ○他者と協力・協働し課題を解決する力を育成します。 ○地域に根ざした活動を通して社会に貢献できる力を育成します。			

学校関係者評価	
【学力の向上】 評価 【 B 】	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の教員はわかりやすい授業に努めていると思う…96%(保護者)</li> <li>子どもは授業を理解していると思う…96%(保護者)</li> <li>本校は進路補習や模擬試験など、生徒が受験上必要とする実力養成対策を立てていると思う…96%(保護者)</li> <li>本校は保護者や生徒が必要としている進路情報を収集し、それを提供していると思う…100%(保護者)</li> <li>少人数であることの良さを生かして、とても丁寧な指導をされている印象がある(自由記述)</li> </ul>
【社会性の育成】 評価 【 B 】	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校は生徒に社会のルールやマナーを守る態度を育てることに努めていると思う…96%(保護者)89%(地域)</li> <li>本校は生徒の自主性を育てる努力をしていると思う…96%(保護者)94%(地域)</li> <li>地域学習として、いの町の伝統産業である土佐和紙や伝統芸能である吾北清流太鼓を学習することは大事だと思う…100%(保護者)94%(地域)</li> </ul>
【チーム学校】 評価 【 B 】	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の教職員は、公務員として自覚を持って職務を行っていると思う…96%(保護者)95%(地域)</li> <li>本校の部活動は、活発に活動していると思う…100%(保護者)98%(地域)</li> <li>小中高合同運動祭、中高交流田植え稲刈りは地域の活性化及び貢献につながったと思う…100%(保護者)97%(地域)</li> <li>本校は学校や子どもたちの課題をオープンにし、保護者や校友会、地域住民と協力して解決できていると思う…92%(地域)</li> <li>地域住民が求めていることを知り、そのニーズに合った地域貢献が吾北分校の魅力になる(自由記述)</li> </ul>

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標をほぼ達成 C:やや不十分 D:不十分

重点項目	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】	
学力の向上	<b>★確かな学力</b> ○基礎となる知識・技能 ○思考力、判断力、表現力 ○生涯にわたって学び続ける意欲 <b>★自己の将来とのつながりを見通した学び</b> ○社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 ○キャリアデザイン力(やりぬく力)	○C層以上の生徒の増加 ・1年:(16.7%)→(23.1)% ・2年:(50.0%)→(60.0)% ○授業外学習時間の増加 「授業外学習(家庭学習等)をほとんどしない」と回答する生徒の割合…10%以下(R6年度11%) ○将来のための勉強をしている生徒の増加 将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている生徒の割合…100%(R6年度96.6%)	①ICTツールの活用 ・ICT支援員を活用し、授業におけるClassPadの効果的な活用 ・毎週月曜日放課後に全校生徒に個別補習 補習内容 計算問題、英語、書写、ICT活用等 ・課題テスト、学力向上テスト(漢字)の実施 ②大学、公務員模擬試験を受験 ・教育センターから配信される大学、公務員の補習を受ける。	○C層以上の生徒の増加について ・1年:(16.7)% ・2年:(40.0)% ○授業外学習時間の増加について 「授業外学習(家庭学習等)をほとんどしない」と回答する生徒の割合…12.9% ○将来のための勉強をしている生徒の増加について 「将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている」と回答する生徒の割合…93.5%	①ICT支援員による研修を充実させ、授業でClassPadを効果的に活用 ②毎週月曜日放課後の個別補習を継続 ③課題テスト、学力向上テスト(漢字)の実施 ④教育センター配信の遠隔補習を実施 ⑤3年生の進路希望実現に向けて、履歴書、自己評価書、小論文、面接等の個別指導を全教員で実施	○C層以上の生徒が増加した ・1年:(23.1)% ・2年:(55.6)% ○授業外学習時間の増加について 「授業外学習(家庭学習等)をほとんどしない」と回答する生徒の割合…13.3% ○将来のための勉強をしている生徒の増加について 「将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている」と回答する生徒の割合…96.7% ○3年生進路決定率…100%(内国立大学進学者2名)	○授業外学習時間を確保するよう、全教科で課題の見直しや提出の徹底、予習復習の徹底を図る。 ○進学ガイダンスやキャリア教育講演会等を通して、将来の目標設定をしっかりとさせ、逆算した取組を意識させる。 ○教員生徒ともに、ICT機器のより実践的な活用を模索する。	
	社会性の育成	<b>★豊かな心、多様性・包摂性の尊重</b> ○豊かな人間性・道徳性・社会性 ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	○コミュニケーション能力の向上及びキャリアデザイン能力の向上に取り組む、進路実現を目指す。 ①将来の進路選択力や目標設定力を高め、100%の進路実現を目指す。 ②インターンシップ及びボランティア活動参加率100%	①進路ガイダンスの実施や個々のキャリアデザインを発表する場を設けることにより進路目標を明確にする。 ②地元企業等と連携したインターンシップの実施及び地域ボランティア活動への参加 ・外部講師による面接指導や社会人としてのマナー指導の実施	○4月に進路ガイダンス、6月に進学ガイダンスを実施した。 ○6月に全校生徒を対象に、キャリア教育講演会を開催した。 ○コミュニケーション能力の向上及びキャリアデザイン能力の向上に向け、活動を充実させる必要がある ○インターンシップ参加率…95.7% ○ボランティア活動参加率…100%	①12月のキャリアデザイン発表会に向けて取組を充実 ②12月対話型企業説明会を開催し、進路目標の明確化と、コミュニケーション力の向上につなげる。 ③地域ボランティア活動への参加	○4月に進路ガイダンス、6月に進学ガイダンスを実施した ○6月、11月にキャリア教育講演会を開催した ○全学年総合的な探究の時間をキャリアワークに取り組み、1月にキャリアデザイン発表会を実施した ○外部講師による面接マナー指導を7月に実施した ○12月対話型企業説明会を開催、2月業界企業説明会へ参加し、進路目標の明確化と、コミュニケーション力の向上につなげた ○インターンシップ参加率…95.7% ○ボランティア活動参加率…100%	○社会性の育成(進路実現を目指した目標設定を含む)に向けて、各分掌の取組を体系化する。 ○いの町と協働し、地域ボランティア活動やインターンシップの更なる充実を図る。
取組項目	地域協働学習	<b>【取組のねらい】</b> ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	○「総合的な探究の時間」(地域学) ・伝統産業である土佐和紙について、地域の支援員を活用し体系的に学ぶ。 ・地域芸能である吾北清流太鼓を地域の方々から指導を受け、課題曲を3年生全員での演奏 ①地域貢献度を生徒、地域、教員を対象に調査し、肯定割合を90%以上 ②地域との連携を10回以上	①「総合的な探究の時間」の全体発表会を実施 ・土佐和紙学習をまとめ発表する ・清流太鼓の課題曲を発表会で演奏する ②地域と連携・協働した学びを通して、生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進	○総合的な探究の時間(地域学)で、土佐和紙、清流太鼓について、地域の支援員を活用し体系的に学べている。 ○地元小学校、中学校の連携をはじめ、ボランティアを通しての地域連携を実施した(4月～9月の期間に計4回実施)	①土佐和紙の学習については、3月にまとめ発表会、清流太鼓の学習については、課題曲を、11月の文化祭で近隣の中学生や地域住民に披露 ②地域と連携した学びを通して、生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと、それに向けた取組を推進 ③学校評価アンケートで地域貢献度を聞く	○総合的な探究の時間(地域学)で、土佐和紙、清流太鼓について、地域の支援員を活用し体系的に学習できた。 ○地元認定こども園、小学校、中学校との連携をはじめ、ボランティアを通しての地域連携、吾北給食センターとの連携事業を実施した。 ○地域と連携、協働した授業や行事を年間10回以上実施し、学校評価アンケートでは、地域貢献度の肯定割合が97%となった。	○生徒、保護者、地域からの評価が高い土佐和紙と清流太鼓の取組は、地域と協働した学習としてより充実させる。 ○新たに、地域課題解決の探究学習を取り入れることで、生徒自身の自主的な取組につなげ、課題解決能力と行動力を培う。
	教科横断的教育	<b>【取組のねらい】</b> ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	○「総合的な探究の時間」を活用した横断的な学び ・土佐和紙を通して、和紙の歴史(地歴公民)、和紙の活用(国語)、和紙の加工(理科・家庭科)を教科横断した学習につなげ、成果発表時にはICTを活用(情報)したものとする ①成果発表会を年2回以上実施	①「総合的な探究の時間」の全体発表会の実施 ・3年生は3年間のまとめを教科横断的の視点を含め発表する。 ・1・2年生は、教科横断を意識した発表を目指す。	○土佐和紙の学習では、和紙の歴史(地歴公民)、和紙の活用(地歴公民、国語)、和紙の加工(理科、家庭科)等を教科横断的に学習できている。 ○清流太鼓の学習では、清流太鼓の歴史(地歴公民)、清流太鼓の演奏(体育、芸術)等を教科横断的に学習できている。	①「総合的な探究の時間」の全体発表会として、11月の文化祭、3月のまとめ発表会を設定 ②各発表の場では、ICTを効果的に活用し、教科横断の視点を持って発表する。	○土佐和紙の学習では、和紙の歴史(地歴公民)、和紙の活用(地歴公民、国語)、和紙の加工(理科、家庭科)等を教科横断的に学習できた。 ○清流太鼓の学習では、清流太鼓の歴史(地歴公民)、清流太鼓の演奏(体育、芸術)等を教科横断的に学習できた。 ○11月の文化祭、3月のまとめ発表会では、ICTを効果的に活用(情報との横断)して準備をすすめ、地元の中学生や他学年の生徒に取組の成果を発表した。	○地域協働学習を通して、生徒が各教科との相互作用を実感できるような授業づくりを目指す。 ○すべての教科の教員が総合的な探究の時間をサポートできる体制を作る。

重点項目	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】	
チーム学校	学校の振興	<b>★学校の魅力化・特色化</b> ○地元中学生との交流 ○分校の魅力発信 ○丁寧な個別指導の実践 ○地域と協働した魅力事業の実施	○魅力化・特色化の具体的目標(指標) ○地元吾北中学校卒業生の吾北分校への進学率の維持を目指す(R7入学生 83.3%) ○地元吾北地域の児童生徒数が減少するなか新規入学者数11名以上を維持する。 (参考:R6吾北中:3年10名、2年7名、1年3名) ○学校運営協議会等の実施	①吾北小・吾北中・吾北分校による合同運動祭の実施 ②近隣中学校との吾北分校施設を活用した交流学習の実施 ③吾北分校の魅力をマスコミを利用し発信 ④個に応じた丁寧な添削指導や補習、部活指導 ⑤地域コンソーシアムによる生徒数確保に向けた取組の検討	○7、8月に地域コンソーシアム会議を開催し、いの町と協働して吾北分校の魅力化・特色化を協議した ○伊野、朝倉、本川、池川、神谷の各中学校で高校説明会を実施 ○次年度11名以上の入学生確保に向け、前向きな取り組みを継続している。 ○7月に第1回学校運営協議会を実施した。	①個に応じた丁寧な添削指導や補習、部活指導の継続 ②地域コンソーシアム会議を通じて、新吾北寮の設立に向けた取組を推進 ③来年度の「総合的な探究の時間」を見直し、魅力化・特色化を図る。	○バドミントン部及び清流太鼓部の合同練習、小中高合同運動祭、文化祭交流など、地域の学校との連携を強化し、魅力を地域の中学生に伝えてきた。 ○年間5回の地域コンソーシアム会議で、いの町と協働し吾北分校の振興と、新吾北寮の整備に向けた提言書を作成提出した。 ○次年度の入学生が6名となった。 ○年間2回の学校運営協議会を実施し、吾北分校の振興について積極的な協議ができた。	○部活動や学校行事において地元中学校や地域との連携を継続し、学校の魅力を外に開く。 ○地域コンソーシアム会議を活かし、外部の意見を魅力づくりにつなげる。
	不祥事防止	<b>★教職員の倫理観の堅持</b> ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○倫理観堅持のための具体的目標(指標) 風通しの良い職場環境であり、この良さ職場風土を維持していく。 ○校内研修の実施…年5回(R6年度3回) ○不祥事防止委員会の実施…年3回(R6年度3回) ○不祥事発生件数 0件	①風通しの良い職員室づくりに取り組む。 ②教員間のコミュニケーションを図る。 ③適切なテーマをもった校内研修を実施	○教員間のコミュニケーションが図れており、業務が潤滑に運んでいる。 ○校内研修を計7回実施(「いじめ防止研修」1回・「ICT研修」1回・「不祥事防止研修5回」) ○不祥事防止委員会を計5回実施 ○不祥事ゼロ	①小さな心配事でも共有し、不平や不満をため込まない風通しの良い職場環境づくり ②生徒に還元できる適切なテーマを持った校内研修を実施 ○不祥事ゼロに向け、学校長と連絡を密にし、定期的に校内研修を実施	○教員間のコミュニケーションが図れ、情報共有と課題解決が迅速にできる風通しの良い職場環境を維持できた。 ○不祥事防止委員会及び不祥事防止研修(各年間6回実施)や日々の声かけ、支え合いを通じて、不祥事ゼロとなった。	○引き続き不祥事ゼロとなるよう風通しの良い職場づくりを力掛ける。 ○適切なテーマを持った校内研修を実施する。
	働き方改革	<b>★長時間勤務の解消</b> ○ワークライフバランスの実現 ○よりよい職場風土づくり ○業務のデジタル化	①長時間勤務者(月45時間超の教職員)を0人にする。 ②定期調査中の年休取得率を28%から40%にする。 ③ICTを活用した業務改善の取組を行う。	①個々の勤務時間や勤務状況を把握 ②教員の出勤簿で確認する。 ③ICTを活用したアンケートの実施、集計	○4月～9月の長時間勤務者(月45時間超の教職員)は、2名であり、いずれも部活動の試合引率に因るところであり、全体的には目標値に近い状態である。 ○定期調査中の年休取得率…16.7% ○「夏の勤務セレクト」利用率…25.0%	①出勤簿等から、個々の勤務時間や勤務状況を把握 ②日常の会話や面談などで、教職員の健康状態や職場、家庭の状況を的確に把握 ③年休等休暇の取りやすい雰囲気づくり ④ICTを活用したアンケートの実施、集計	○年間を通して長時間勤務者(月45時間超の教職員)は2名だが、部活動の試合引率がない月は、長時間勤務者となっていない。 ○定期調査中の年休取得率…18.5% ○各教職員がICT研修等に積極的に参加し、業務改善に努めた。	○長時間勤務が予想される月には、該当教員に対する事前の声かけや、事後の健康状態確認等を的確に行う。 ○年休等休暇の取りやすいサポート体制の整った職場環境を作る。